

## 2 河内小学校の実践

### (1) はじめに

河内地区は、牟岐町の山間部に近く、昭和南海地震での大きな被害は伝えられておらず、津波の影響もほとんどなかった。しかし、次の南海地震は、前回よりも規模が大きいとも言われており、山崩れや道路の亀裂等をはじめ被害が拡大する可能性も否めない。また、河内小学校の児童も、津波の被害の大きかった牟岐小校区内に出かけることが多い。中には、社会体育や塾等で毎日のように行き来をしている児童もある。

このようなことから、次の大地震に備え、地震や津波に対する正しい知識や備えを学ばせたい。また、災害が発生した時、大人とともに、子どもとして「何をしたらいいか」、「何ができるか」考え、進んで協力して取り組める子どもを育てていきたい。

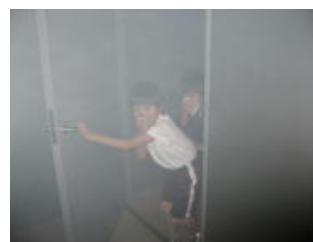
### (2) 年間計画

実施時期	内 容
第1学期	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 県立防災センター見学</li><li>・ 野島断層見学</li><li>・ 昭和南海地震の体験談を聞く</li><li>・ 総合的な学習の時間での取り組み 4年生：校区内の危険箇所の探検，防災の話を書く</li></ul>
第2学期	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 視察旅行</li><li>・ 町内避難訓練</li><li>・ 町内防災講演会</li><li>・ オリエンテーリング遠足</li><li>・ 非常持出用品を知ろう</li><li>・ バケツリレー体験</li><li>・ 非常食試食会</li><li>・ 町内避難所体験訓練</li><li>・ 総合的な学習の時間での取り組み 4年生：防災マップの作成</li></ul>
第3学期	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 総合的な学習の時間での取り組み 4年生：防災マップの完成</li><li>・ まとめ</li></ul>

### (3) 具体的な取り組み

#### 防災センター見学<5月14日(水)>

1年生から5年生までが、春のバス遠足で、県立防災センターを見学に行った。防災ガイダンス、地震体験・消火体験・風体験・煙体験などを行った。特に大きな揺れを経験したことのない児童にとって、地震体験が一番心に残ったようであった。



### 野島断層の見学<5月14日(水)>

6年生の修学旅行では、野島断層の見学をコースに加えた。児童は、土地の大きな変化とともに、地震のエネルギーの大きさに驚いていた。



### 昭和南海地震の体験談を聞く<6月6日(金)>

昭和南海地震を体験した中山さんに話を聞かせていただいた。牟岐町内では、津波で大きな被害がでたことや、堤防や川、土地の高低で被害が大きく違ったことなど、たくさんのが分かった。また、河内地区でも、鉄橋が落ちたという、地震の被害も初めて知った。



地しんで、家はこわれなかったけれど、津波でたくさんこわれたと知っておどろきました。ぼくが、生きている間に、地しんがおこるから、気をつけたいです。

### 視察旅行<7月29日(火)>

夏季休業日に、教職員の研修旅行として、北淡震災記念公園(野島断層)・人と防災未来センターを見学に行った。人と防災未来センターでは、14年前の阪神大震災の貴重な記録や資料が豊富に掲示され、学ぶべきものがたくさんあった。また、地元の震災経験者の方から体験談を聞くことができた。生々しい話に災害の大きさと人々の苦労、また、人間のたくましさを感じることができた。

### オリエンテーリング遠足<11月6日(木)>

毎年、行っている秋のオリエンテーリング遠足では、今回は牟岐町内に行くことになった。町のあちこちに津波の高さの表示や避難所の表示があることに驚いていた。



オリエンテーリング遠足をしていると、牟岐の町にはたくさんひなん所がありました。秋葉神社にみんなで登ってみましたが、たいへん。津波からひなんするところがこんなに高いとは知りませんでした。

### 非常持出用品を知ろう

非常時には、どんな物が必要で、どのように使えばよいか、非常持出用品を実際に使ってみた。



## 親子防災体験 < 11月20日(木) >

P T A 参観日を利用して、親子で体験できる防災体験を行った。

### ア バケツリレー体験

災害時でも、子どもにできることの一つとしてバケツリレーを行った。大型プールから池に、子どもと保護者と教職員でバケツをリレーしていった。また、バケツリレーの列の役割とバケツを大型プールの場所に戻す役割を交代しながら行った。

< 準備物：バケツ(30ぐらい)、大型プール >



たくさんの人数でしたら、いっぱいある水も少しの時間で運べると思いました。みんなの団結力はすごいと思いました。(保護者)

みんなの助けがあって。バケツリレーをしたが、大変と思いました。水を送り終えたバケツを運ぶのもまたたいへんです。体力が必要です。(保護者)

### イ 非常食試食会

3つの地域ごとに分かれ、災害による避難生活をイメージしながら、非常食を作ってみてみんなで分け合って試食してみた。

< 準備物：白飯 五目ご飯 あべ川もち 水 コップ  
お皿 スプーン サランラップ ウエットティッシュ >



お湯や水を入れるだけでごはんやおもちができてすごいと思いました。そして、おいしくてビックリしました。(保護者)

水や湯を使って簡単にできたのにはびっくりしました。きなこちは味もよく家にぜひ置いておきたいと思いました。災害に備えて5年はもつので、十分用意しておきたいと思いました。(保護者)

### ウ その他

非常持出袋の展示、防災資料の展示、防災の動画など。



地震は本当に怖いと思った。一瞬ですべての物をなくすので日頃からの準備が必要だと改めて感じた。(保護者)

パニックになると思うのでいかに冷静な判断行動がとれるかこういう映像を何回も見た方がいいと思いました。(保護者)

自分の住んでいる地域が地震・災害がおきた場合、どこに避難するのか。家にいる場合はどうやって避難するか、家族でもう一度話し合う必要があると思いました。(保護者)

### 総合的な学習

- ・4年生は、総合的な学習として、地域の安全を取り上げ、防災マップを作成することになった。
- ・役場防災課の方に来ていただいて、河内地区の土砂災害について教えていただいた後、フィールドワークへ出かけた。最後に子ども目線での防災マップを作成した。



## (4) 取り組みの成果と課題

### < 成果 >

- ・子どもたちは、防災に関する様々な学習や体験を通して、地震や津波が身近な災害であることに気づき、意欲的に活動するとともに、防災に対する意識が高まってきた。
- ・子どもであっても、自分たちができることがあることがわかってきた。また、それを実践する中で、子どもたちの中に、たくましさや頼もしさを感じるようになってきた。
- ・河内校区は、昭和南海地震でも大きな被害がなく、非常食や非常持出用品をそろえている家庭が少なかった。非常食を初めて食べる保護者も多く、その便利さや味の良さにも驚いていた。また、非常持出用品についての知識が広がり、家庭でも備えようとする意識が高まってきた。
- ・パケツリレー体験することで、改めて、集団の力の大きさを実感することができた。また、みんなで声をかけ合うことにより、連帯感が生まれ、最後までやりとることができた。
- ・河内は山間部で、津波の被害を受けにくい地区だが、子どもたちは、牟岐小校区内に出かけることも多く、卒業後は牟岐中学校に通う。そのため、津波について学習できたことは、今後予想される津波にも冷静に対応できる心の準備になった。

### < 課題 >

- ・子どもたちも保護者も防災に対する意識が高まってきたが、それを実践・継続していくことが難しい。機会をとらえて、啓発していく必要がある。
- ・次に起こるであろう南海地震等は、前回よりかなり大きいと予想されている。そのため、前回大きな被害でなかった河内地区でも、予想外の災害が起こるかも知れない。過去の経験だけに頼らず、絶えず新しい情報を収集して学んでいく姿勢を子どもたちや家庭に啓発していきたい。
- ・教職員も、防災の研修を重ねることにより、知識や意識の向上がみられるようになってきた。非常時に冷静に対応できるよう、今後も研修を積み重ねる必要がある。